シンポジウム記録

ハタ科魚類の繁殖の生理生態と種苗生産

征矢野 清^{1*} (長大海セ),
照屋和久² (水研セ西海水研亜熱帯研究センター),
中田 久³ (長崎水試)

Reproductive Ecophysiology and Aquaculture
of Groupers

KIYOSHI SOYANO,^{1*} KAZUHISA TERUYA²
AND HISASHI CHUDA³

¹Institute for East China Sea Research, Graduate School of
Fisheries Science and Environmental Studies, Nagasaki
University, Taira-machi, Nagasaki 851-2213, ²Seikai Na-
tional Fisheries Research Institute, Fisheries Research
Agency, Ishigaki, Okinawa 907-0451, ³Nagasaki Prefec-
tural Institute of Fisheries, Tairamachi, Nagasaki 851-
2213, Japan

はじめに

ハタ科魚類は、我が国をはじめ、東アジア・東南アジ
ア諸国を中心に養殖対象種として注目されている水産重
要種である。また本科魚種は、沿岸生態系において上位
に位置する魚種であることから、海洋環境の保全・回復
の観点からも重要視されている。近年、本科魚種の繁殖
に関わる生態学的・生理学的研究が急速に進み、本科魚
種に特徴的な多くの性質が明らかとなった。加えて、種
苗生産技術の開発が積極的に進められ、科学的に裏付け
られた種苗生産の実施が可能となりつつある。そこで、
ハタ科魚類の繁殖に関わる最新の生理生態学的情報およ
び種苗生産の最前線情報を理解し、種苗生産・養殖・資
源管理を戦略的に進めるための討議を行うために、この
シンポジウムを企画した。シンポジウムでは、ハタ科魚
類の繁殖生理学的・生態学的・行動学的な最新知見が紹
介されるとともに、種苗生産・増養殖の現状と問題点が
報告された。その後、今後のハタ科魚類の増養殖におい
て解決すべき問題や方向性について活発な論議が交わさ
れた。

〈プログラム〉

企画責任者：征矢野 清 (長大海セ)・照屋和久 (水研
セ西海水研)・中田 久 (長崎水試)

趣旨説明 征矢野 清 (長大海セ)

Ⅰ ハタ科魚類の繁殖機構

座長：照屋和久 (水研セ西海水研)

1. 配偶子形成・性転換のメカニズム
小林靖尚 (岡山大臨海)
2. 最終成熟・産卵のメカニズム
泉田大介 (長大院水環)
3. 産卵関連行動 征矢野 清 (長大海セ)
4. 孵化仔魚の変態・遊泳・行動
河端雄毅 (長大海セ)

Ⅱ ハタ科魚類の種苗生産・養殖技術

座長：中田 久 (長崎水試)

1. 人為催熟・採卵技術
照屋和久 (水研セ西海水研)
2. 生残率の向上を目指した種苗生産技術
阪倉良孝 (長大院水環)
3. 形態異常軽減技術 宇治 督 (水研セ増養殖研)
4. ウイルス対策技術 森 広一郎 (水研セ増養殖研)
座長：征矢野 清 (長大海セ)
5. マハタの種苗生産・養殖技術
土橋靖史 (三重水研)
6. クエの種苗生産・養殖技術
中田 久 (長崎水試)
7. キジハタの種苗生産・養殖技術
南部智秀 (山口水研セ)
8. スジアラの種苗生産・養殖技術
武部孝行 (水研セ西海水研)

Ⅲ 総合討論

座長：征矢野 清・照屋和久・中田久

閉会挨拶 照屋和久 (水研セ西海水研)